

対象国の条件:

研修コース番号:201984901-J002

案件番号:201984901

主分野課題:環境管理/気候変動対策

副分野課題:農業開発/その他農業開発

使用言語:英語

案件概要

国連気候変動枠組条約第23回締約国会議（2017年）では、農業分野において、適応策・緩和策の科学技術面での検討に加えて、各国での具体的な対策の実施についても議論することが決定された。本研修では、途上国でも実施しやすい適応・緩和技術、農作物残渣や家畜糞尿等の農産廃棄物を利用したバイオエネルギーの活用、最新のスマート農業、適応計画策定とその実施体制など気候変動対策に関する知見を提供することで能力開発を行う。

目標/成果	対象組織/人材
<p>【案件目標】 農業分野における自国が決定する貢献（NDC）達成に向けた、適応策・緩和策の実施及び温室効果ガス排出・吸収量の測定を推進するためのアクションプランが作成される。</p> <p>【成果】 1. 農業分野において実施可能な適応策・緩和策のオプション及び温室効果ガス排出・吸収量の測定手法に関する知識を習得する。 2. 日本の農業分野における適応計画策定に係る取組や実施体制について理解し、自国への応用可能性を考察・整理する。 3. パリ協定や日本の経験を踏まえ、自国が決定する貢献（NDC）における農業分野の目標設定に向けたアクションプランについて、議論を行い準備を行う。</p>	<p>【対象組織】 農業分野の気候変動政策を所管する政府機関及び同政策に関連する研究を行う政府系研究機関</p> <p>【対象人材】 農業関係の気候変動政策の策定・実施にあたる実務レベルの政府職員及び研究者</p>

内 容											
<p>【事前活動】 自国及び所属組織における、農業分野の気候変動に対する取組に関する現状・課題についてのレポート作成</p> <p>【本邦活動・視察先】 ・日本の農業分野における気候変動対策の概要と方針、各省庁や省内での取組に関する講義 ・適応策、緩和策、温室効果ガス排出・吸収測定、気候変動対策へのスマート農業の活用に関する講義・視察 ・我が国による途上国におけるプロジェクト事例紹介 ・農産廃棄物由来バイオエネルギーに関する講義 ・適応策に関する具体的事例視察 ・気候予想のダウンスケール ・アクションプラン作成</p> <p>【事後活動】 ・作成したアクションプランの所属先及び関係組織への共有、発表及びディスカッション</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1077 1187 1220 1299">本邦研修期間</td> <td data-bbox="1220 1187 1543 1299">2019/7～2019/7</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1077 1299 1220 1344">担当課題部</td> <td data-bbox="1220 1299 1543 1344">地球環境部</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1077 1344 1220 1702">所管国内機関</td> <td data-bbox="1220 1344 1543 1702">JICA筑波（研修業務）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1077 1702 1220 1747">関係省庁</td> <td data-bbox="1220 1702 1543 1747">農林水産省</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1077 1747 1220 1792">実施年度</td> <td data-bbox="1220 1747 1543 1792">2019～2021</td> </tr> </table>	本邦研修期間	2019/7～2019/7	担当課題部	地球環境部	所管国内機関	JICA筑波（研修業務）	関係省庁	農林水産省	実施年度	2019～2021
本邦研修期間	2019/7～2019/7										
担当課題部	地球環境部										
所管国内機関	JICA筑波（研修業務）										
関係省庁	農林水産省										
実施年度	2019～2021										

主要協力機関	調整中
---------------	-----

特記事項及びホームページ	
---------------------	--